



ほんよも No. 003



6/8 (月)、図書室

今度こそ

リニューアルオープン!!

リニューアルオープン直前に臨時休校になってしまいました。なんというタイミングの悪さでしょうか。というわけで、今度こそリニューアルオープンします。図書室は2階、3年生教室の向かいです。3年生のみなさんは1、2年生を優しく案内してあげてください。図書室の開館時間は、

昼休みが13:00～13:15、放課後が15:30～16:30

です。本はたくさんの人が触るので、**入室前後の手洗い・消毒を忘れずに!**

まだまだ未整理の棚もありますが、みなさんが一番手に取ることが多い小説の棚は整備しました。オススメの小説がたくさん並んでいます。他にもいくつか特集コーナーを設けています。ぜひ覗きにきてくださいね。**来室先着20名には、特製しおりをプレゼントします。**



休校期間が長かったことが幸いして、図書管理新システムへの移行も全て終わりました。バーコード処理で貸出・返却ができます。図書委員を通じて配る「図書館利用者カード」を提示してください。(忘れても借りることはできます)

今日は、図書室にある本の中から、『**墓地を見おろす家**』というホラー小説の傑作を紹介します。興味を持った人、借りに来てください。早い者勝ち!!

～化け物たちが巣喰う恐怖のマンション～ 『墓地を見おろす家』 小池真理子

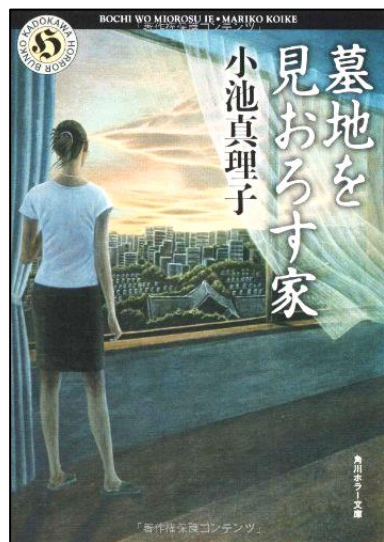
内容・あらすじ

哲平と妻の美沙緒・幼稚園児の娘の玉緒の一家は、ある高層マンションを格安で購入し、移り住む。格安だった理由は、墓地と火葬場に取り囲まれていたから。(この時点でもう不穏な空気)

目の前が墓地であることをさほど気にせず暮らしていた一家だが、次々と不気味な出来事が起こる。

飼っていた文鳥の謎の死。テレビに映る謎の影。意思があるかのように動かなくなるエレベーター。娘の原因不明のケガ。狂ったように吠える飼犬。無人の地下室から聞こえる物音と話し声……。

そして不気味な出来事はエスカレートしていき、恐れをなした住民たちが次々と引っ越していく。哲平一家も耐え切れなくなり、引っ越すことを決意するが、妨害としか思えない怪奇現象が次々と起こり……



川口先生の感想

主人公一家がこのマンションを出られるか、が最大のポイントなのですが、じわじわと退路を断たれていく感じが非常に恐ろしいです。読んでいる間、ずーっと心拍数が上がりっぱなしでした。

そしてこの小説が怖い最大のポイントは、「最後まで怖いまま」だということ。

小説でも映画でも、ホラーものは「いろいろ怖いことがありましたけどなんとか助かりました、よかったですね」というふうに終わるのが普通です。

ところが、この小説は違います。**最後まで事態が解決しないまま。**それがより一層怖さを引き立たせるのです。

ラストの一行の救いのなさといったらもう……。

私は、**あまりに怖すぎて読んだあとすぐにこの本をゴミ箱に捨てました。**持っているだけで「やつら」が来るんじゃないかという恐怖に駆られてまして……。

怖い話が平気な人は、ぜひ読んで感想を聞かせてください。

この文庫本タワーの中にあります

